

十 月 （今月の掲示板）

H.27
(2015年)

真宗大谷派・願成寺

人生に『本当の満足を与えてくれる』のが仏教です

『自分の力（自力）で生きている私』と思い込ませているのが自我です。自我が無明（真理に疎い無智）を生み、生・老・病・死の四苦などで苦悩します。お釈迦様は6年間の苦行の後『四苦は自然の成り行き＝縁起の法（則）』に目覚め・覚られました。『覺り』を目指すのが仏教です。仏法（仏の教え）を信じても病気が治つたり、金儲け・事故に遇わないなどの利益はありません。老人や病人でも『この縁で今の私が有り・これでイイのだ（縁起の法）』の安心感を与えて下さるのが仏法（念佛）の教えです。昔、『今日は赤ちゃん・私がママよ』の歌があり、いつか『ママと呼んでね』の意味でした。幼児期は、母親が側に居ると安心します。煩惱の無い赤ん坊の毎日は、仏様の世界です。親鸞聖人は念佛の教えから、皆（御同朋・御同行）一緒に居ると楽しいと思われました。嬉しい・悲しい時、『念佛してくれよ』の阿弥陀仏（親様）の願いである（本願）念佛が出る時、信心が頂けて救われます。

主な参考資料

(1) 小川一乗(著)『みちしるべ・正業一八正道シリーズ』、仏教伝道協会、p. 22~41(平成27年)。

(2) 竹下哲(著)『花すみれ双書3・お淨土が開けている』、法藏館、p. 7~26(1998年)。

(3) 延塚知道(講演筆録)『第40回・真宗大谷派・大阪教区同朋大会』記録誌、p. 26~50(2015年)。